(財)米子市教育文化事業団
文化財発掘調査報告書 11

鳥取県米子市
石州府第2遺跡発掘調査報告書

――鳥取県企業局日野川工業用水道事業配水池設置工事
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書――

1995. 3
財団法人　米子市教育文化事業団

はじめに

米子市東部の中国地方最高峰大山の山麓には、数多くの埋蔵文化財があります。西日本有数の縄文時代の遺跡として有名な上福万遺跡、弥生時代の環濠と四隅突出型墳丘墓が発見された尾高浅山遺跡、古墳時代後期の約70基の古墳が発掘調査された石州府古墳群など米子市内はもとより鳥取県内でも貴重な遺跡が集中している地域です。

今回の発掘調査は、鳥取県企業局の委託を受け、日野川工業用水道事業の内、配水池設置工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施したものです。

調査の結果、弥生土器、須恵器などの遺物や弥生時代の土坑を確認いたしました。隣接する石州府古墳群、石州府第1遺跡、石州府第4遺跡と同様な遺跡と考えられます。

この発掘調査の記録や出土品が活用され、文化財に対する理解が深まり、文化財保護の一助となれば幸いに存じます。

ご協力いただきました地元の方々をはじめとして、鳥取県企業局西部事務所ならびに関係者各位に感謝申しあげます。

平成7年（1995年）3月

財団法人　米子市教育文化事業団

理事長　森　田　隆　朝

例　　言

1．本書は、財団法人米子市教育文化事業団が鳥取県企業局の委託を受けて実施した日野川工業用水道事業の内、配水池設置工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査の記録報告である。

2．本報告書に収載した遺跡の所在地は、鳥取県米子市石州府７５８－１である。

3．発掘調査の実施体制は下記のとおりである。
- 調査委託者　　鳥取県企業局
- 調査主体　　財団法人米子市教育文化事業団（理事長　森田隆朝）
- 調査担当　　財団法人米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
- 調査協力　　米子市教育委員会

4．発掘調査によって出土した遺物、作成した記録、写真などの資料は、米子市教育委員会が保管している。

5．本書の執筆、編集は財団法人米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室調査員が行った。

6．本報告書における方位は、すべて磁北を示す。

7．本報告書における遺構略号は次のとおりである。　　ＳＫ：土坑

8．本文、挿図及び図版中の遺物番号は一致する。

目　　次

はじめに…… 1
例言、目次…… 2
調査に至る経過、位置と環境…… 3
調査の結果…… 5
ま　と　め…… 7
発掘調査抄録…… 8
写真図版…… 9

1．調査に至る経緯

石州府第２遺跡は、鳥取県米子市石州府758－１ほかに所在する。

鳥取県企業局から米子市教育委員会に対して、日野川工業用水道事業のうち配水池設置工事予定地に関する埋蔵文化財の有無について協議があった。当該地は、石州府第２遺跡内と考えられたが、現況は、山林となっており、土器の散布などを確認することは不可能であった。そのため、米子市教育委員会が平成５年度の補助事業で試掘調査を実施し遺跡の範囲などを確認した。その結果、工事予定地のほぼ全域について埋蔵文化財の存在が考えられた。

これを受けて鳥取県企業局は、米子市教育委員会と協議を行い、発掘調査の実施を決定し、財団法人米子市教育文化事業団に発掘調査の実施を委託した。

米子市教育委員会が実施した試掘調査では７世紀の須恵器が出土しており、隣接する石州府第４遺跡では竪穴住居跡や土器散布地が確認されており、これに繋がる遺跡と思われ、全面発掘調査の実施となった。

調査は、人力による表土除去を基本とし、一部については、重機による表土除去を行った。

2．位置と環境　（第１図）

石州府第２遺跡（Ａ）は、米子市街地から南東に約8.5kmの米子市石州府地内に所在する古墳時代終末期から奈良時代の集落遺跡である。

縄文時代の遺跡としては、本遺跡北方約500ｍに上福万遺跡（１）がある。上福万遺跡からは、早期の押型文土器が多量に出土し、西日本有数の規模をほこる。また、本遺跡南方の大山山麓にも縄文時代早期～前期の遺跡が点在している。

弥生時代の遺跡としては、隣接する石州府第１遺跡（２）で土壙墓が確認されており、中期後葉のものと思われる。また、約２．５北方には、後期前半の環濠と四隅突出型墳丘墓が発見された尾高浅山遺跡（３）があり、その他、後期の環濠が確認されている日下寺山遺跡（４）、四隅突出型墳丘墓や土壙墓群が調査された日下堂平遺跡（５）などかなりの弥生時代中期後半～後期後半の遺跡がみられる。

古墳時代の前期には、本遺跡の周辺の丘陵上に古墳（６）が築かれるようになる。石州府29号墳からは獣帯鏡が出土し、石州府118号墳では、割竹形木棺と鏡片が確認されている。中期の古墳として明確なものはないが、石州府119号墳はＶ字状の石枕をもち中期的な様相を呈するものである。後期になると、本遺跡に隣接して古墳群（６）がみられる。この古墳群は70基以上で構成され、その主体部は横穴式石室が多くみられ、特に、石州府１号墳（７）は、径40ｍをこえる大円墳で横穴式石室を内部主体とし市内最大の規模を誇る。

古墳時代終末期～奈良時代の遺跡としては、石州府第４遺跡（８）で竪穴住居跡が確認され、また、上福万遺跡からは、墨書土器（『奈』）が出土している。調査地は、律令体制下においては、伯耆国会見郡にあたる。会見郡の郡衙は、日野川を隔てた長者屋敷遺跡（９）と推定されている。また、法起寺式伽藍配置をとり重要文化財に指定されている石製鴟尾をもつ大寺廃寺（10）も近い。

平安時代には、坂中廃寺（11）が造営されているが、以降の様相は明らかでない。

室町時代から戦国時代には、尾高城（12）が西伯耆の中心として栄えている。発掘調査によってその姿が明らかとなっている。

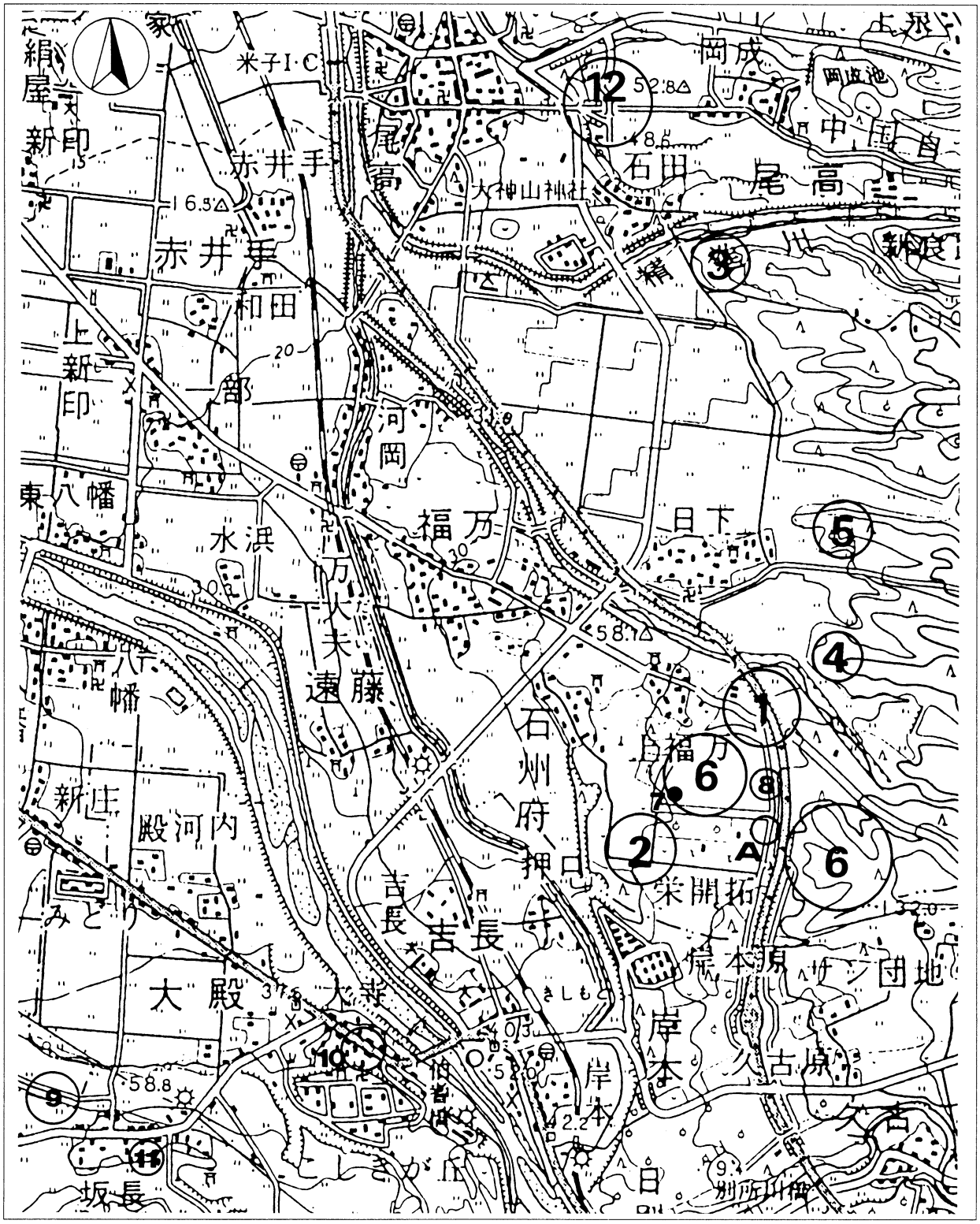


図1　発掘調査位置及び周辺遺跡分布図（1:25,000）

A……調査地（石州府第2遺跡）

1	上福万遺跡	2	石州府第1遺跡	3	尾高浅山遺跡	4	日下寺山遺跡
5	日下堂平遺跡	6	石州府古墳群	7	石州府1号墳	8	石州府第4遺跡
9	長者屋敷遺跡	10	大寺廃寺	11	坂中廃寺	12	尾高城

3. 調査の結果

発掘調査は、排土置場の問題があり、便宜上調査地を4区にわけておこなった。

表土については当初、人力によって除去をおこなったが、遺物がほとんど検出されなかったため、途中から重機をもちいておこなった。

表土除去後、遺物、遺構の検出に努めた。表土は約20cm～30cmあり、その下層に黒色土（クロボク）が約20cm～40cmあり、遺物はこの層中の上部から出土した。黒色土の下層は、黒茶色土となり無遺物層であった。

調査の結果、土抗2基、弥生土器、須恵器、土師器などを確認した。

図2　調査地周辺地形図（1:5,000）

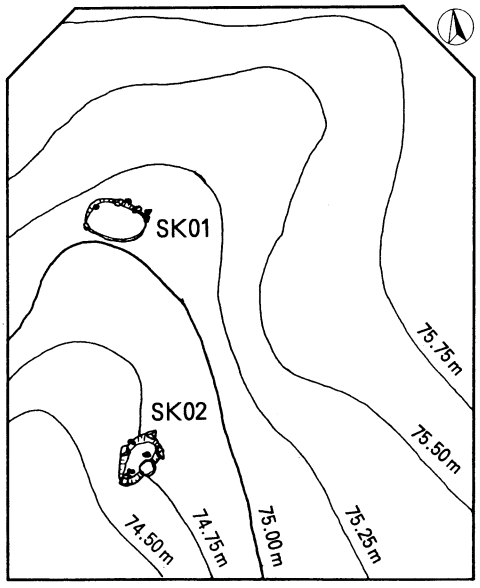


図3　調査地周辺地形図（1:5,00）

ＳＫ－０１（第４図）

ＳＫ－01は調査区のほぼ中央で検出した。平面形態は楕円形を呈し、長径4.0m、短径2.7m、深さ16～22をはかる。ＳＫ－01の肩には15～70大の石がある。

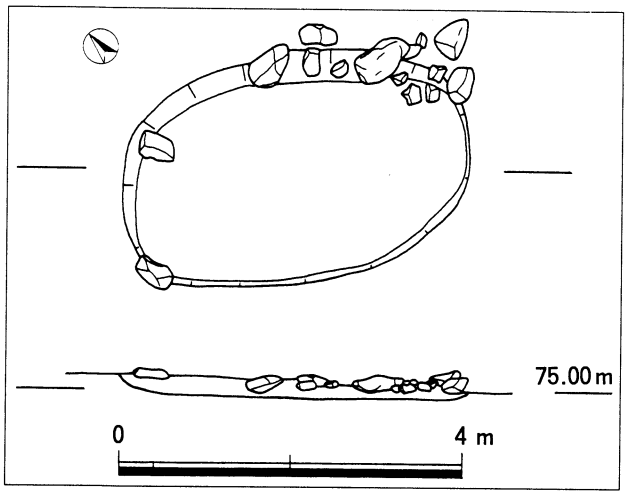


図4　SK－01 遺構図（S=1/80）

出土遺物（第５図）

弥生後期の高坏の坏部か（？）坏部は段を有し、口縁は外反するものと思われる。屈曲部には刺突文がある。

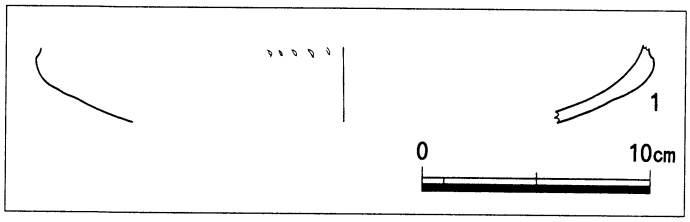


図5　SK－01 出土遺物実測図

ＳＫ－０２（第６図）

ＳＫ－02は調査区の南端で検出した。平面形態は不整形な楕円形を呈し、長径3.8m、短径2.2m、深さ20～23をはかる。ＳＫ－02の肩には40～110大の石がある。

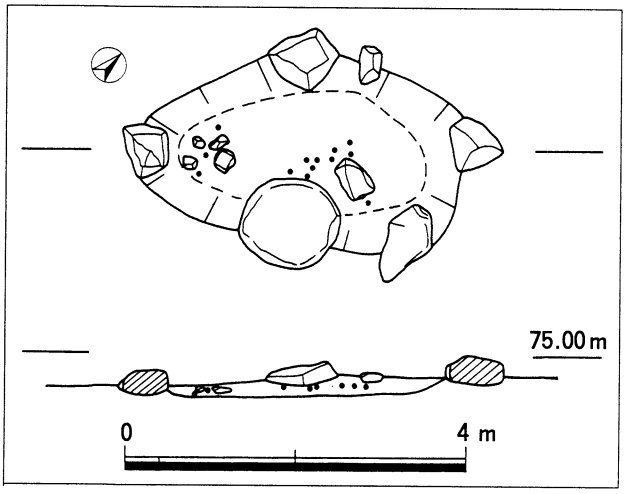


図6　SK－02 遺構図（S=1/80）

出土遺物（第７図）

１は弥生中期の甕で、口縁は外反し、口縁端部を上方へつまみ出す。２は弥生後期（？）の壺あるいは甕の肩部で、内面ケズリしている。３、４は土師器の甕で、３は口縁が外傾し、器壁は薄い。４は口縁が外傾し、頸部の器壁に比べて口縁中位、端部が肥厚する。

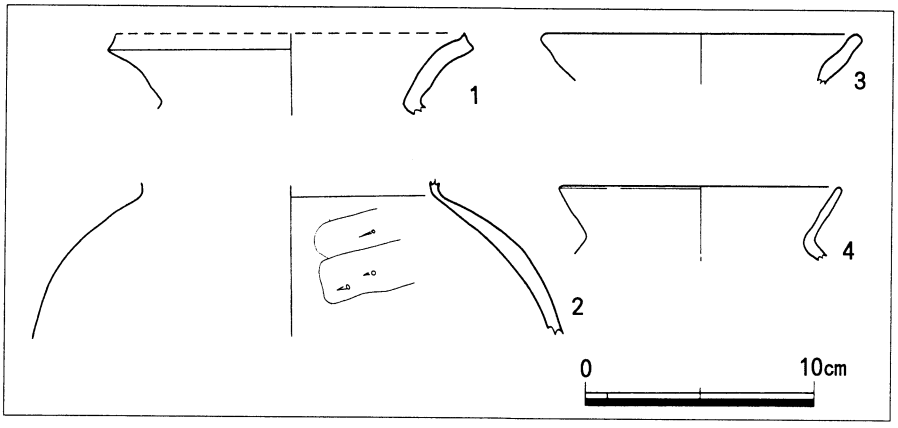


図7　SK－02 出土遺物実測図

遺構外遺物（第８図）

１は、弥生時代前期初頭の土器で刻目はみられない。２～11は須恵器で古墳時代後期末のもので田辺編年ＴＫ 217併行期。２～８は高坏、９、10は甕、11は壺の体部。

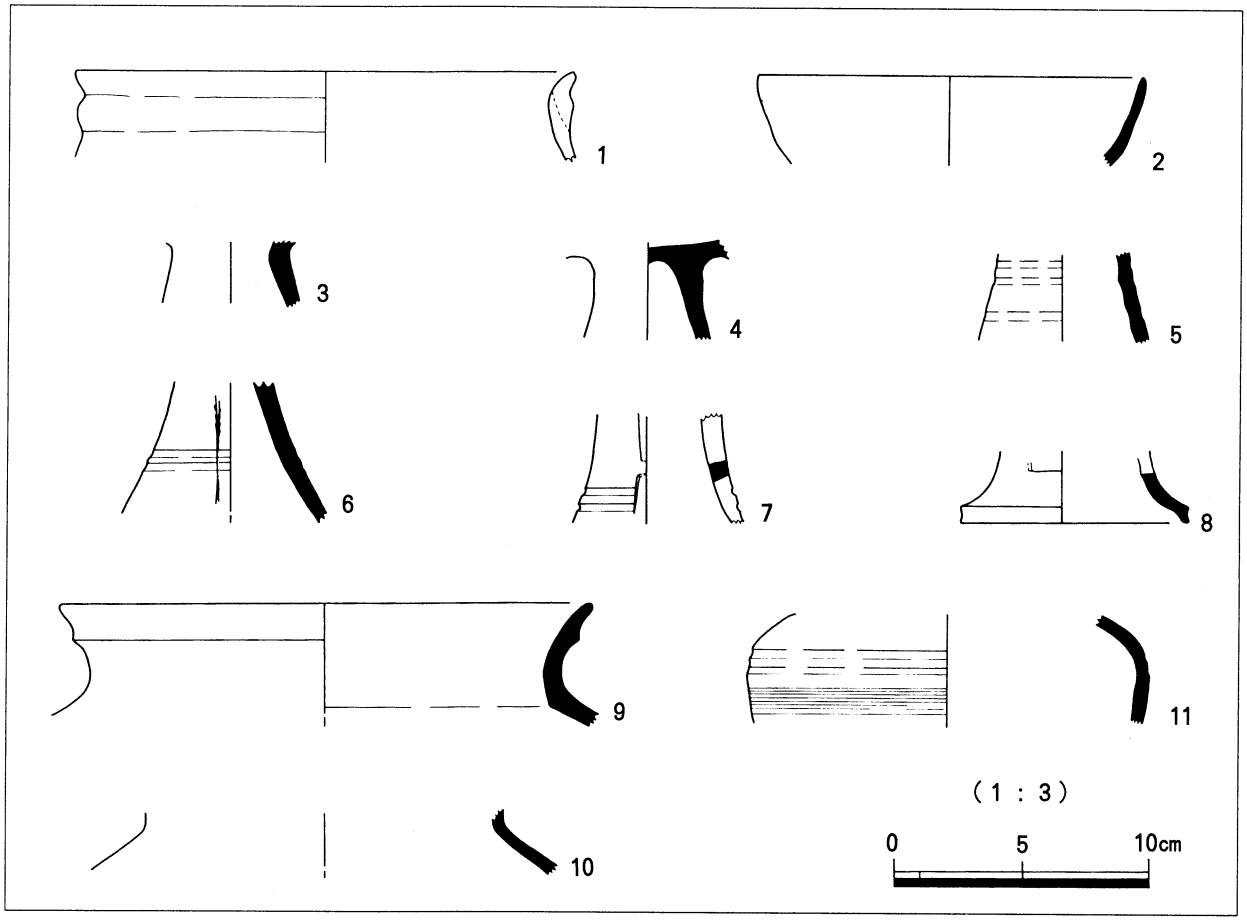


図８　遺構外出土遺物実測図

4. ま と め

今回の発掘調査では、石州府第４遺跡でみられた７世紀前半ごろの住居跡、土師器の散布などは確認できなかったが、須恵器の散布がみられ石州府古墳群や石州府第４遺跡とのつながりが考えられる。また、弥生土器も確認できており、石州府第１遺跡との関連も推定される。弥生時代中期～後期の遺跡である石州府第１遺跡と古墳時代末～奈良時代の遺跡である石州府古墳群、石州府第４遺跡の接点のような地域にあたっていると考えられる。遺物、遺構の密度は稀薄となるが、石州府第１遺跡は東側に、石州府第４遺跡は南側にその範囲が拡大されると考えられる。

須恵器の出土は、調査地の南東部に集中しており、また、６世紀末～７世紀前半のものと考えられるため、出土地周辺に古墳が存在していた可能性も推定されるが、石州府古墳群にみられた横穴式石室や大形の箱式石棺に用いられた石材は確認できていない。

また、弥生前期初頭の土器が出土しており、隣接する石州府古墳群からも出土がみられているので、弥生前期初頭ごろの遺跡が存在する可能性がある。

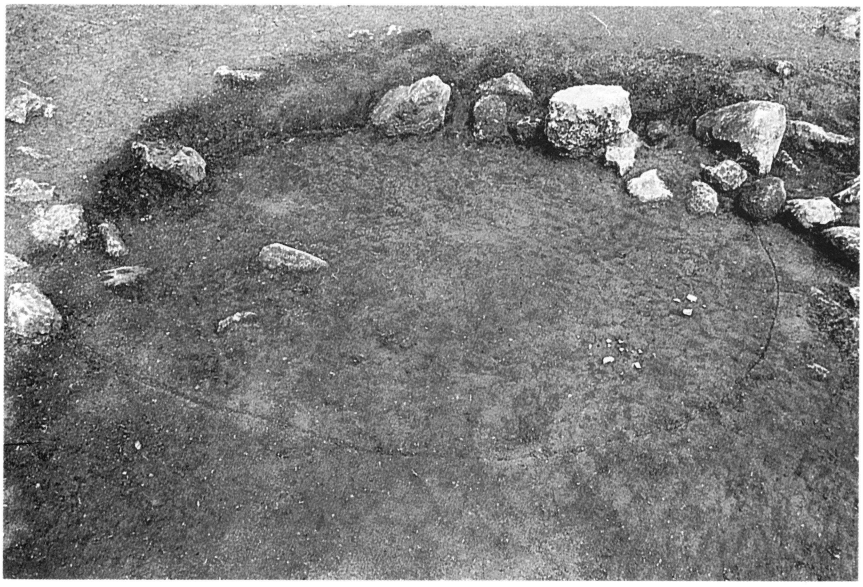
報 告 書 抄 録

ふ り が な	せきしょだい2いせき
書 名	石州府第2遺跡
副 書 名	鳥取県企業局日野川工業用水配水池設置工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	
シ リ ー ズ 名	㈶ 米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	11
編 著 者 名	平木裕子、高橋浩樹、下高瑞哉
編 集 機 関	財団法人 米子市教育文化事業団 埋蔵文化財調査室
所 在 地	〒683 鳥取県米子市中町20 TEL（0859）22－7209
発 行 年 月 日	西暦 1995年3月31日

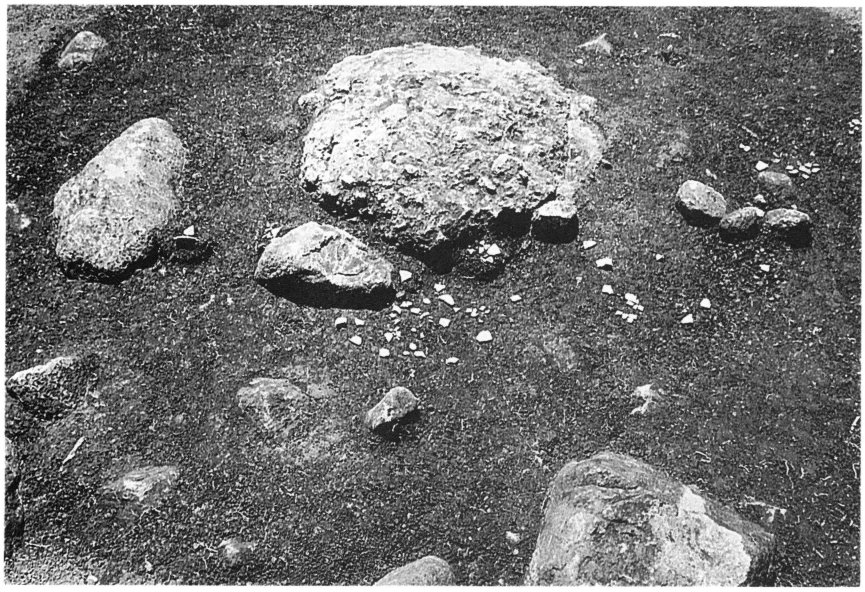
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東緯 °′″	調査機関	調査面積	調査原因
せきしょだい2いせき 石州府第2遺跡	せきしょだい2いせき 鳥取県米子市 せきしょ 石州府	31202		35度 23分 30秒	133度 25分 20秒	1994.7.1～ 1994.8.31	1,300㎡	工業用配水 池設置工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
せきしょだい2いせき 石州府第2遺跡		弥生時代 古墳時代	土抗	弥生時代、須恵器、土師器	なし

〔図版1〕



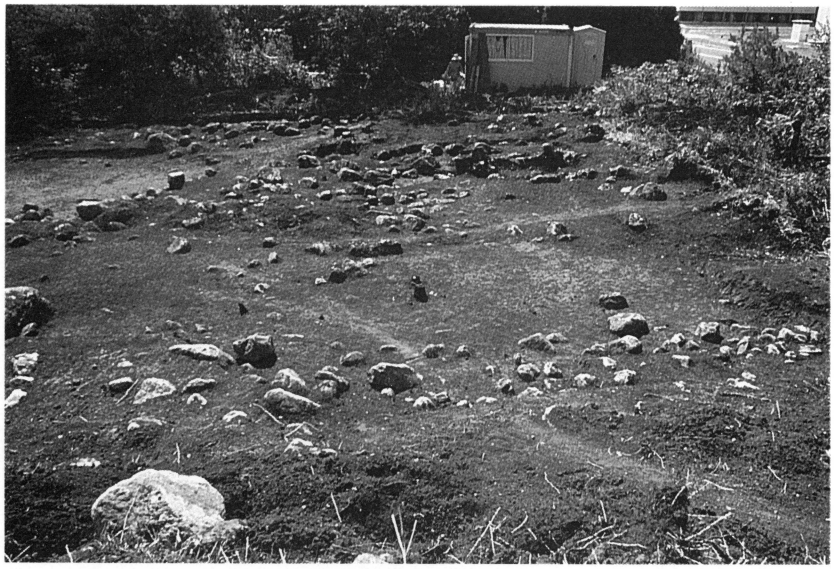
SK01



SK02

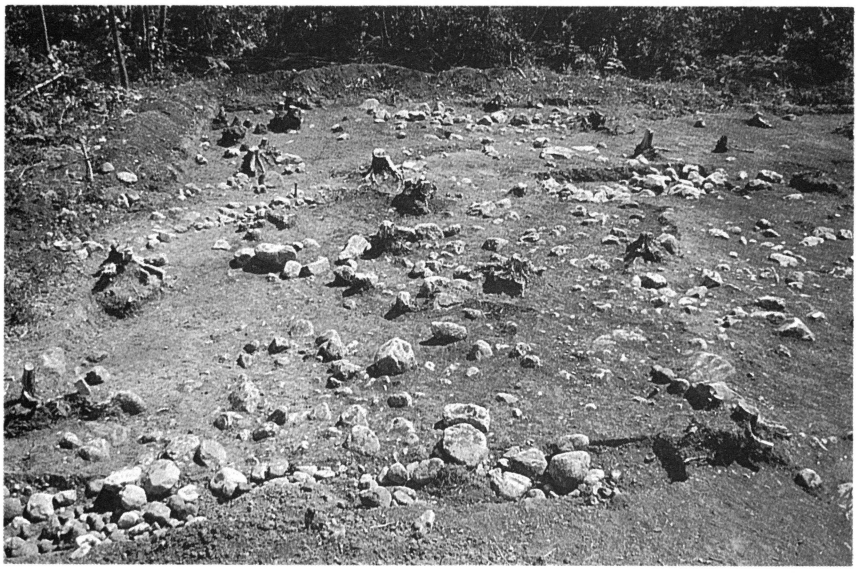
須恵器散布状況

〔図版２〕



＜調査地＞
北西部分

＜調査地＞
南西部分



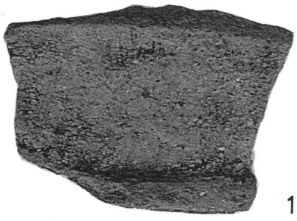
＜調査地＞
南東部分

〔図版３〕

散布地（南西端）完堀状況

表土除去作業

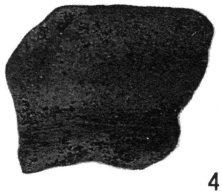
SK01出土



1

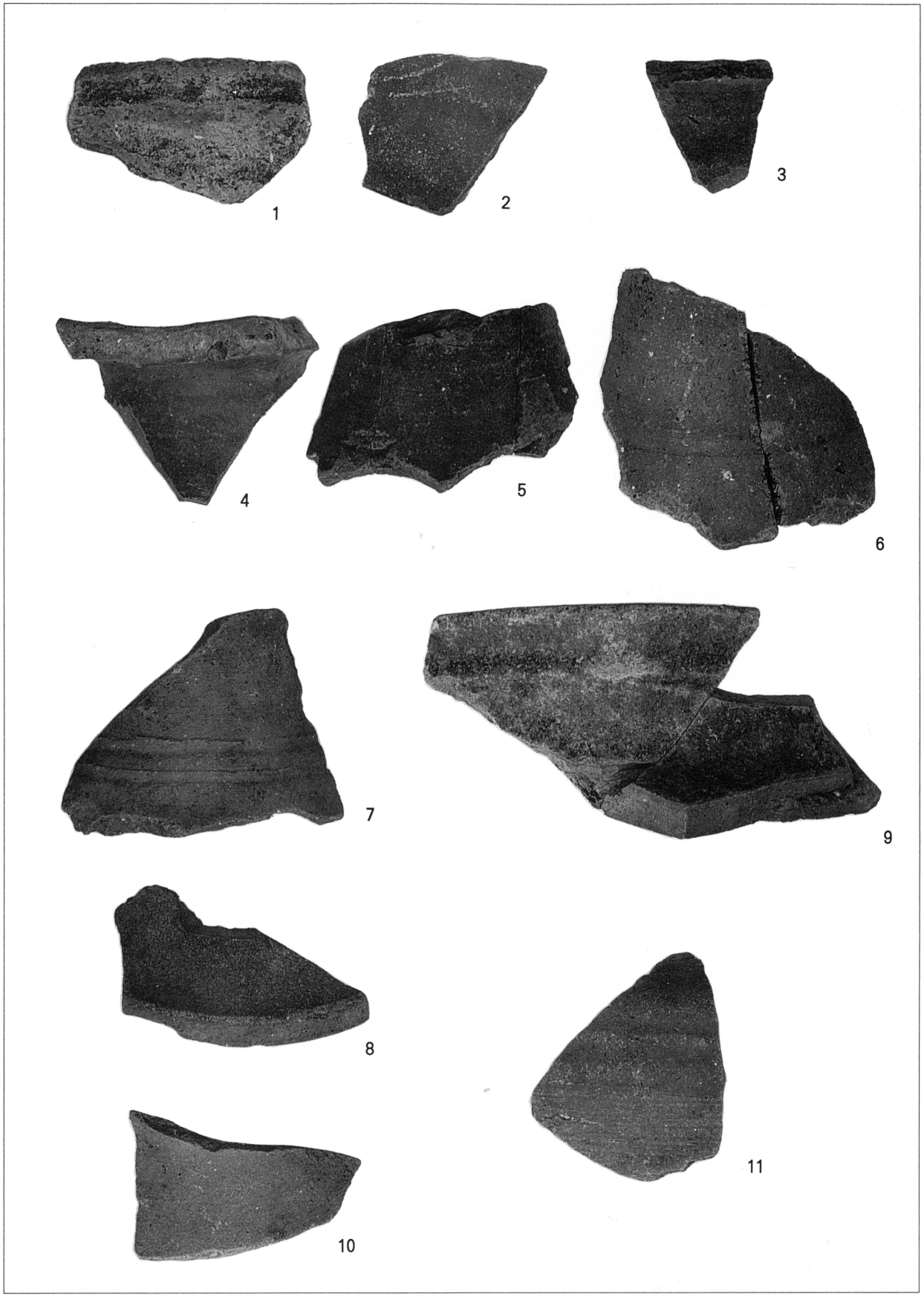
2

3



4

SK02出土遺物



遺構外遺物

㈶米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書11

石州府第2遺跡

１９９５年　３月

編集・発行　財団法人　米子市教育文化事業団
〒683　鳥取県米子市中町20

印刷　（有）み　ど　り　印　刷